

北海道秋の学び推進月間の取組

胆振教育局
平成29年12月18日

北海道教育委員会では、毎年4月と11月を「北海道学び推進月間」と定め、学力向上のための各種事業に重点的に取り組むとともに、家庭学習や読書などを奨励する広報啓発活動を通して、家庭や地域における学びの取組を一層推進することにより、「確かな学力」の向上を目指しています。

「北海道教育の日」（11月1日）から始まった「北海道秋の学び推進月間」では、学校や家庭、地域において様々な取組が行われました。特色ある取組を紹介するので、今後の取組の充実を図るため参考として御活用いただければと思います。

○ 白老町立小・中学校の取組

地域の人材を活用した放課後学習会

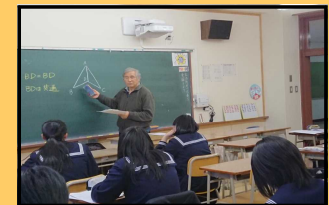
白老町内の小・中学校では、学習内容の確実な定着に向けた取組として、教室内に既習事項を掲示したり、学習内容の復習を行う「放課後学習会」を設定したりしています。特に「放課後学習会」は、地域の人材を活用した取組が行われています。

白老小学校では、「学びあいたいむ」、虎杖小学校では、「寺子屋虎杖浜」として、算数等の復習を中心に児童が解答したものを地域の方が丸付けなどを行っています。また、白老中学校においては、地域学校協働本部と連携を図り、地域の人材を活用した放課後学習を実施しています。

教職員からは、「子どもたちは、地域の方々からの励ましで学ぶ意欲が高まり、授業の復習を通して、計算力が付いてきた」という声も聞こえています。



【白老小学校の様子】



【白老中学校の様子】

○ 北海道種別高等学校の取組

キャリア教育の一環としての「租税教室」

種別高校では、社会の一員としての自覚を養うことを目的に、毎年3年生を対象に「租税教室」を行っています。今年度は、11月24日（金）、室蘭税務署から講師をお招きし、税金の種類や特徴、税金の使われ方、日本の財政などについての話を聞きました。また、「もし税金がなかったら」をテーマにしたビデオを見て、税金によって私たちの暮らしの安全や快適さが維持されていることを実感しました。始まる前は「たくさん税金を払う人はかわいそう。」「できるだけ税金は払いたくない。」などという声が生徒の間から聞こえましたが、クイズを交えた説明などで、税金の意外な実態を知るとともに、税金への理解が深まり、問題意識をもつことができました。最後に、生徒代表から「税について知ることができてよかった。今後は税金の使われ方にも注目したい。」という謝辞が述べられ、税金の必要性を改めて考える貴重な時間となりました。



【「租税教室」の様子】

「北海道学び推進月間」標語

☆最優秀作品（最優秀賞）☆ 北海道苫小牧南高等学校1年 野 龍 生 さん

「学びから 新たな自分が 見えてくる」

☆☆優秀作品（奨励賞）☆☆ 伊達市立伊達小学校4年 馬 渕 栞 奈 さん

「読書から 自分の未来 見つかるよ」

伊達市立伊達小学校6年 渡 辺 心 奈 さん

「勉強は 自分の辞書を つくるため」

北海道登別明日中等教育学校4年 磯 角 空 さん

「将来へ 学びの地図で 進んでく」

今年度もたくさんの作品を応募いただきありがとうございました。